

森林やまがた

No.74

2008 5月



目次

地球温暖化防止森林吸収源10ヶ年対策と

「やまがた公益の森構想」	2
森林整備地域活動支援交付金の 現状と展望	3
特用林産物の生産動向	4
緑の少年団活動報告 仲間作りの1年間	5
遊学の森プログラム紹介	6
県民の森で楽しいイベント	6
源流の森で森に親しむイベント	7
眺海の森で嬉しいイベント	7

普及情報

木質バイオマスエネルギーを考える	8
現地ルポ オープンを待つ「遊学の森」	9
山形の古木・名木	10
公共木造施設	10
県産材による家づくり ネットワーク	11
丸太価格の推移	12
製材品価格の推移	12

(表紙写真は天童南部多目的交流センター)

地球温暖化防止森林吸収源10ヶ年対策と『やまがた公益の森構想』

はじめに

地球の温暖化は、平均気温の上昇による気温の変動や海面の上昇など、世界の生態系や私たちの生活に深刻な影響を及ぼしかねない問題として、その解決に向けた国際的な取り組みが進められてい

ます。近年では、温暖化の防止に貢献する森林の役割がクローズアップされてきました。

国の地球温暖化対策と森林・林業

日本は、平成九年に採択された京都議定書で温室効果ガス6%の削減を国際社会に約束

しました。そして、この目標を達成するため、平成十四年三月に新たな地球温暖化対策推進大綱を策定し、各産業分野の具体的な取組を明らかにしました。

この中で、森林・林業分野は、適切な森林経営により一、三〇〇万炭素トンの吸収量が見込まれることから、温暖化防止に貢献する分野として削減目標六%のうち三・九%を担

うことが示されました。これを受け、農林水産省は平成十五年度を初年度とする「地球温暖化防止森林吸収源十ヶ年対策」を策定しました。

この十ヶ年対策では、平成十三年の森林・林業基本計画に基づき、森林整備や木材の供給・利用などを計画的に進め、目標達成を目指しています。

また、これら対策は段階を踏んで展開することとし、平成十五・十六年の第一ステップは行動計画の作成など推進体制を整備する期間としています。

山形県の取組み（やまがた公益の森構想）

県では、この二酸化炭素の吸収機能に代表される森林のもつ公益的な機能を発揮させる森林整備の促進と、昨年六月に開催された第五十三回全国植樹祭の成功を契機として「県民参加の森林づくり運動」をさらに発展させることが重要と考えています。

このため、本県の森林を県民共有の財産として「公益の森」と位置付け、

県民各層の協働による恵み豊かな森林づくりを基本理念とする「やまがた公益の森構想」を今年度に策定し、県民の幅広い参加を得た森林整備と、県産木材の利用や木質バイオマスのエネルギー利用など木材資源の循環利用を進めていきます。

新たな大綱における森林・林業対策の位置づけ

京都議定書CO₂の削減目標6%の達成には、森林吸収源対策による削減3.9%の達成が不可欠

現状程度の水準で森林整備等が推移した場合は、確保できる吸収量は3.9%を大幅に下回るおそれ

平成13年10月に閣議決定された森林・林業基本計画に基づき、森林整備、木材供給、木材利用等を計画的に強力に推進

10ヶ年対策の展開

2003年から第1約定期間の終了年である2012年までの10年間に於いて以下の対策を強力に展開、吸収量の報告・検証体制を強化

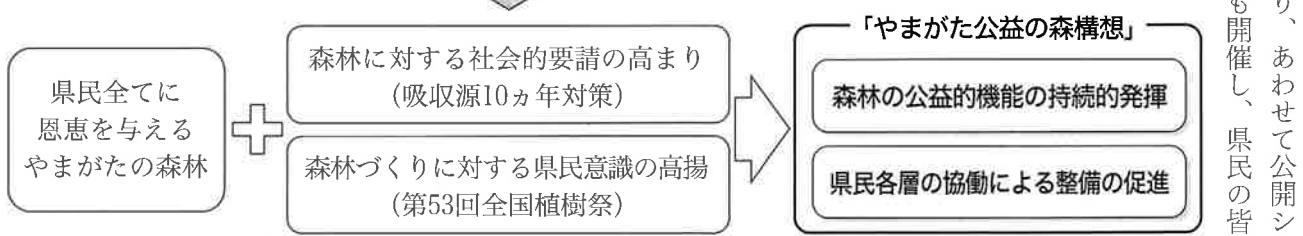
具体的な対策

- 健全な森林の整備による吸収機能の向上
公的な森林整備、間伐対策、複層林への誘導等を推進
荒廃が進む自然循環を多様で豊かな森林に回復・再生
- 保安林等の適切な管理・保全による吸収機能の維持・確保
自然災害の未然防止や迅速な復旧
松くい虫被害、野生鳥獣被害対策を推進
- 森林づくりへの多様な主体の参加による国民的取組の推進
地域住民、NPO等の参加と連携を促進し、国民的取組を推進
- 森林整備の促進と排出抑制につながる木材、木質バイオマス利用の推進
木材利用による森林整備の促進、化石燃料の使用抑制

また、この構想では、十ヶ年対策の行動計画である森林吸収源対策推進プランも明らかにし、管理が不十分な森林を特定して整備を進めるモデル的な取組を実施していきます。なお、策定の過程では、森林所有者や関係者、森林ボランティアの皆様からも意見をいただきながら地域

の合意形成を図り、あわせて公開シンポジウムなども開催し、県民の皆様が森林づくりについて考え、参加できる仕組みづくりを目指していきます。これら施策の推進にあたって、県民の皆様の一層のご理解とご支援をお願いします。

〔県森林課〕



森林整備地域活動支援交付金の現状と展望

はじめに

近年、林業経営の悪化による林業生産活動の停滞や、森林所有者の高齢化、不在村化等を背景として、適切な森林施業の実施に不可欠な森林の現状の把握や歩道の整備などの活動（地域活動）が十分に行われていない状況にあります。

このため県では、森林所有者等が適切な森林整備の推進を図るため、地域活動に対し、積算基礎森林一畝当たり一万円を市町村長が交付する制度として、平成十四年度から五カ年事業として実施しています。

本制度の対象森林（一定林齢以下の育成林）は、平成十四年度以降新たに認定された森林施業計画が対象となっていることや、市町村の財政負担等が生じることなどもあり、平成十四年度は一万五千六百八十畝の実績となりました。平成十五年度の計画面積は、二万六千畝とし、市町村毎の取組状況は下表のようになっています。

地域活動の実施状況
交付対象行為となる活動内容につ

森林整備地域活動支援制度取組状況表

市 町 村 名	平成14年度 実績面積 (ha:万円)	平成15年度 計画面積(当初) (ha:万円)
山形市	0	168
上山市	188	262
天童市	0	90
中山町	0	0
計	188	35
寒河江市	475	477
河北町	159	159
西川町	2,476	2,480
朝日町	1,217	1,220
大江町	1,356	1,360
計	5,683	5,696
村山市	341	980
東根市	203	400
尾花沢市	300	400
大石町	328	528
計	1,172	2,308
新庄市	0	補正対応
金山町	1,633	1,633
最上町	70	308
舟形町	0	100
真室川町	0	0
蔵川村	0	420
大鮎川村	0	0
計	1,703	2,461
米沢市	78	1,200
南陽市	49	487
高島町	0	600
西計	100	100
計	227	2,387
長井市	448	482
小白国町	2,080	2,080
飯豊町	744	814
計	671	871
計	3,943	4,247
鶴岡市	220	1,200
立川町	179	200
余目町	—	—
藤島町	200	235
羽黒町	200	300
朝日村	357	757
檜引町	220	420
三川町	—	—
温海町	800	1,500
酒田市	29	35
遊佐町	13	200
八幡町	221	250
松山町	125	150
平田町	201	300
計	2,765	5,547
合 計	15,681	23,201

注) 平成15年度計画面積は、26,000haを目標に推進する。

きましては、①森林の現況調査②施業実施区域の明確化作業③歩道の整備等④その他が該当するところですが、平成十四年度の実施状況といたしましては、現況調査並びに実施区域の明確化の活動を主に、歩道の整備も実施されているようです。

本制度の今後の展望

本県といたしましては、未整備森林の解消のため、目標基礎面積を、民有林面積三十一万二千畝のうち緊急に対策が必要となる三十五年生以下の人工林面積（公有林を除く）四

万五千畝のうち、約七割の三万二千畝としたところです。

本制度を大いに活用し、地域活動がスムーズに実施され、森林整備が計画的に実行されることを期待しているところです。

今後とも森林所有者への本制度の啓蒙と市町村並びに森林組合との連携を図りながら、森林の有する多面的機能が十分に発揮されるよう適切な森林整備の推進をさらに進めていきたいと思えます。

〔県森林課〕



歩道整備状況写真

特用林産物の生産動向

平成十四年は、生産額3%増加

「特用林産物」は、森林から生みだされる「林産物」のうち、木材を除いたすべてのものの総称であり、「きのこ類」、「山菜類」、「樹実類」のほか、うるし等の樹脂類、おうれん、きはだなどの薬用植物、木炭、薪、竹、桐など、たくさん種類がある。

一、平成十四年の概況

本県における平成十四年次の特用林産物の生産量は約一万四百トン、生産額は五十九億六千万円で、前年と比較すると、生産者数は減少しているものの、生産規模の拡大等が進んだことにより、生産量は二%、生産額は三%増加している。

二、きのこ類

「きのこ類」の生産量は、八千九百八十八トン、生産額は四十四億二千万円で、各々前年比三%の増加となっている。「きのこ類」は、特用林産物生産額全体の七十四%を占めている。

前年比で生産量の増加している品目は、「なめこ」(前年比二%増)、「ぶなしめじ」(前年比三十八%増)、「生

しいたけ」(前年比十一%増)、「エリンギ」(前年比十八%増)となっている。一方で、生産者の減少等により、生産量が減った主な品目は、「えのきたけ」、「ひらたけ」、「まいたけ」となっている。

三、山菜類

「山菜類」の生産量は、千七百七十四トンでほぼ前年並み、生産額は一億二千万円で、前年比三%の減少となっている。「山菜類」は、生産額全体の十九%を占めている。

前年比で生産量の増加している主な品目は、「ねまがりたけ」(前年比二十一%増)、「たらのめ」(前年比二十七%増)、「みず」(前年比九%増)、「うるし」(十二%増)となっている。一方で、「わらび」、「ぜんまい」、「あけび」などは、前年より生産量が減少している。

四、その他の品目

「木炭類」の生産量は、前年比三%減の八百七十七トン、生産額は十九%増加し、三億一千万円となっている。白炭、黒炭、竹炭は前年比で生産

量が減少したが、粉炭は六%ほど生産量が増加している。また、木酢液生産量は前年比で十三%減少している。

「樹実類」、「竹桐類」の生産額は、前年並みの一億一千万円となっている。

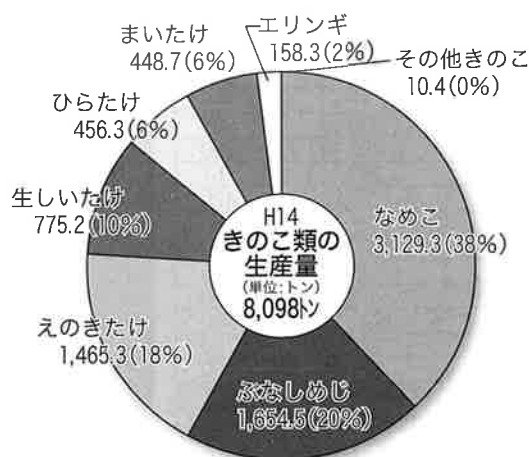
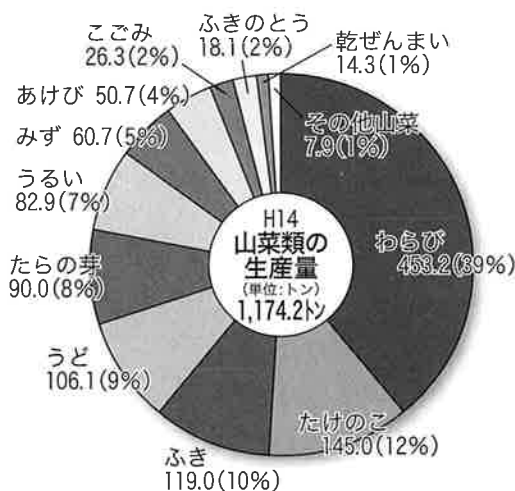
五、全国における生産順位

本県の特用林産物生産量の全国順位を平成十三年のデータでみてみると、「わらび」、「原木なめこ」の生産量が全国で一位で、他の品目でも上位を占めるものが多く、きのこ類全体では、全国十位となっている。

特用林産物の生産は、農山村地域の複合経営の作目として有望である

県内生産量と全国順位 (平成13年)

	生産量(トン)	全国順位
わらび	476	1
ぜんまい	19	5
ねまがりたけ	37	4
たらのめ	71	3
なめこ(原木栽培)	106	1
なめこ(菌床栽培)	2,954	2
えのきたけ	1,680	8
ぶなしめじ	1,200	10
きのこ類計	7,843	10



ことから、今後も、本県の豊かな自然環境を活かした生産振興と関係機関との連携による消費拡大施策を展開していく。
〔県森林課〕

緑の少年団

活動報告



金山小学校
6年 山田 玲

仲間作りの1年間

今年の活動で心に残るものといったら、やっぱり全国植樹祭です。植樹祭の活動では、天皇皇后両陛下が来られるので、まず最初にプランターに花を植え、町にかざる事から始まりました。

プランターは、材料を正野さんから分けて頂いて自分でつくり、花を植えました。そしてかざると、このプランター自分で作ったんだなあーと思うほど明るくなって、とてもうれしかったです。

次に練習です。私達少年団は歩き方、おじぎ、あいさつの仕方など、ていねいに教えてもらいました。

おかげで、おじぎの仕方などが良くなったのでやって良かった・・・と思いました。

そして当日。きんちょうと不安を感じながらバスに乗った私達に、朝



緊張した天皇陛下のお手植え

早いのに外に出て応援してくれた人もいました。とつてもうれしかったです。絶対成功させねきゃ!!という気持ちはあの時みんなが思っていたでしょう。

遊学の森につき、いよいよ天皇皇后両陛下がおつきになりました。私達はきんちょうの嵐でしたが、大きな失敗もなく大成功に終わりました。私達が不安のどんぞりに落ちなかったのは、一人一人の想いがあったのがあります。やっぱり家族、友達



町を飾るプランターに花を植える

指導して下さったみなさんや町の方々のあったかい応援があったからだと思います。応援して下さいたいです。さんには本当にお礼を言いたいです。少年団では、他の地域の少年団との交流会もしました。川遊びやオリエンテーリングなど楽しい活動がてんこもりで、特に川遊びではカジカがいるわいるわでたくさんいて、感激しました。

今年の活動は友達がたくさんできました。どの活動でもたくさんの人と知り合う事ができて本当に良かったです。

私達が活動した所は自然にめぐまれています。今環境がくずれている所もあるので、とても悲しいです。でもまたいつかきれいな木や花が見られる様に、金山がきれいなままでいられる様に、自然を大切にしていきたいと思います!!



交流会でのオリエンテーリング

県内4番目の県民の森となる山形県「遊学の森」が6月7日(土)にオープンします。

当日は、御製碑の除幕式、記念植樹、記念式典、及び森林交流館「木もれび館」の開館式が行われる予定となっています。

遊学の森プログラム紹介

問い合わせ先：森林交流館「木もれび館」
TEL. 0233-64-3305

行事名	イベント	内容	
1. 常設プログラム	(土曜日・日曜日・祝祭日・夏休み期間、個人・団体で事前にお申し込みください。)		
自然観察	・雑木林ウォッチングなど	遊学の森、グリーンバレーカム口などを利用した森林案内	
木工・クラフト	・草木染め、・木工細工、 ・自然木木工など	森林交流館、野外等での木工及びクラフト等の体験	
森林の体験	・森林づくり・薪づくり	枝打・間伐などの林業施業や燃料の薪づくりを体験	
食の体験	・そば打ち、・燻製	そば打ちや川魚の燻製づくりを体験	
2. 遊学の森 主催プログラム	春	・山菜と雑草を食べる	山菜、雑草の種類と調理方法を学び試食
		・野草でお茶の楽しみ	お茶として利用できる野草を知り試飲
		・キノコ栽培	しいたけ、なめこ等の植菌体験と栽培方法の学習
	夏	・森の昆虫観察会	森林を散策しながら森林に生息する昆虫の観察
		・森の夜遊び	夜の森を散策しながら夜の森林の世界を体験
		・木の葉を使う	色々な葉っぱを使って葉拓、しおり作り等を体験
		・秘密基地づくり	森で隠れ家、ツリーハウス等をつくり野宿を体験
	秋	・山の宝を食べる	きのこ・木の実等を採取し、試食
		・遊具の手づくり	木材で遊具をつくり、「遊学の森」に設置
		・木の実酒づくり	森林の木の実を使って、木の実酒づくりを体験
	冬	・落ち葉焚火と焼きいも	落ち葉で、昔ながらの焼き芋作りの体験と試食
		・アニマルトラッキング	冬の野山で動物の足跡、食痕、糞等を観察
・スノートレッキング		雪の野山をスキー、かんじき等で散策し、自然観察	
	・雪遊び	そり、イグルー、かまくら作り等の雪遊びを体験	

お知らせ

県民の森で楽しいイベント

問い合わせ先：県民の森森林学習展示館
TEL. 023-666-2116

行事名	開催日程	テーマ・内容
第二土曜日森林クラブ	全体テーマ：緑の迷宮案内「曼陀羅（まんだら）」の里探訪 参加費：1,200円（全6回分）	
第1回	6月14日（土）	嶽原・大平の湧水を訪ねて
第2回	7月12日（土）	白鷹山の巨樹探訪
第3回	8月9日（土）	曼陀羅（まんだら）の里地域づくりワークショップ
第4回	9月13日（土）	千人窪探訪
第5回	10月11日（土）	東黒森山で出羽富士鳥海山を探そう
第6回	11月8日（土）	桜地藏「磨崖仏」、風穴を訪ねて
第四土曜日森林クラブ	全体テーマ：県民の森生き物すみかづくり 参加費：無料	
第1回	6月28日（土）	トンボとカエルのすみかづくり（1）
第2回	7月26日（土）	夏休み自由研究
第3回	9月27日（土）	トンボとカエルのすみかづくり（2）
第4回	10月25日（土）	カブトムシのすみかづくり
第5回	11月22日（土）	クリスマスツリーづくり
展示会等		
む・う・ぶ作品展	10月25日（土）～	木工・クラフト作品の展示
森の芸術祭	11月1日（土）～3日（月）	

源流の森で森に親しむイベント

問い合わせ先：源流の森センター
TEL. 0238-77-2077

行事名	開催日程	テーマ・内容
森林の学校	親子や子ども等を対象とした、森林と人々の関わりを学ぶ学校です。	
第37回 ^{もり} 森林の学校	6月1日(日) 6月8日(日)	サイクリングと小枝アートづくり 参加費：1,000円/日・人
第38回 ^{もり} 森林の学校	7月12日(土)～13日(日) (1泊2日)	森の動物・植物に学ぶ豊かな自然体験 参加費：小中学生3,000円、高校一般5,000円
第39回 ^{もり} 森林の学校	8月9日(土)～10日(日) (1泊2日)	自然に親しみ、野外活動の楽しさを体験 参加費：小中学生3,000円、高校一般5,000円
第40回 ^{もり} 森林の学校	9月13日(土) 9月14日(日)	自然の恵みを楽しもう 参加費：500円/日・人
第41回 ^{もり} 森林の学校	11月1日(土) 11月2日(日)	歴史ある農山村の暮らしを学ぶ 参加費：500円/日・人
第42回 ^{もり} 森林の学校	2月28日(土)～29日(日) (1泊2日)	春の芽吹き探しと地域文化の体験 参加費：小中学生3,000円、高校一般5,000円
お祭りなど		
オープニングイベント	5月11日(日)	緑のプレゼント、森の音楽会、クラフト、冒険・陶芸体験
夏祭り	7月26日(土)、27日(日)	夏休み工作教室、自由研究相談会、森の音楽会
第7回森の文化祭	9月27日(土)、28日(日)	陶芸、クラフト、冒険教育体験、森の音楽会
第7回企画展示会	11月1日(土)～24日(月)	絵画や工芸などの作品展覧会
森づくり、研修など		
第9回森を育てる実習隊	5月17日(土)	1000年の森をつくる林業体験 参加費：1,000円
森林安全研修	5月24日(土)～25日(日)	チェーンソー操作研修会
冒険教育体験会	6月14日(土)	冒険教育プログラムの体験会
第10回森を育てる実習隊	6月28日(土)	1000年の森をつくる林業体験 参加費：1,000円
第11回森を育てる実習隊	9月27日(土)、28日(日)	1000年の森をつくる林業体験 参加費：1,000円
第7回冒険教育指導者講習会	10月15日～19日 (4泊5日)	冒険教育プログラムを活用できる指導者の養成 参加費：114,000円
第6回森林環境教育指導者養成研修	10月24日～26日 (2泊3日)	森林環境教育の知識や手法を学ぶ研修 参加費：25,000円

眺海の森で嬉しいイベント

問い合わせ先：眺海の森森林学習展示館
TEL. 0234-62-3323

行事名	開催日程	テーマ・内容
第2回「森林教室」	5月18日(日)	新緑の森林散策、舞茸の植菌、本焼皿絵付け 参加費：700円/人
眺海の森ロードレース	7月6日(日)	小学生男子・女子、中学生男子・女子、一般男子・女子 親子の種目(松山町教育委員会主催)
眺海の森音楽祭	7月下旬	野外ステージ会場でアマチュアバンドコンテスト
第3回「森林教室」	8月24日(日)	昆虫探しの森林散策、沼での魚釣り、リースづくり 参加費：700円/人
第11回グランドゴルフ大会	9月27日(日)	庄内市町村のグランドゴルフ愛好会の交流大会
第4回「森林教室」	10月12日(日)	木の実探し森林散策、きのこ収穫、木工製作 参加費：700円/人
第5回「森林教室」	11月9日(日)	落ち葉ウォーク、しいたけ植菌体験、木工製作 参加費：700円/人

平成十四年度に「バイオマス・ニッポン総合戦略」が閣議決定されました。そのなかで農林水産省、環境省と関係省庁が連携し、①地球温暖化の防止、②循環型社会の形成、③競争力のある新たな戦略的産業の育成、④農林漁業、農山漁村の活性化に向けたプロジェクトの展開が示されています。

木質バイオマスエネルギーもその手法の一つであります。木質バイオマスエネルギーとして利用可能な資源には、製材工場で発生する端材やオガ粉の他、間伐材や松食い虫などの被害木、林地残材や果樹・街路樹の剪定枝、ダムの流木、住宅の解体材などがあります。

現在、その利用は限られており、多くは産業廃棄物として処理されています。これらを循環資源の木質バイオマスとして積極的に活用を図る必要があります。

二酸化炭素の排出抑制・地球の温暖化の防止

木質バイオマスは、石油などの化石燃料とは異なり、資源として育て循環的に利用することが可能です。

また、木材を燃やすことにより二酸化炭素は発生しますが樹木は、成長段階で二酸化炭素を吸収します。

木質バイオマスエネルギーを考える

～地球の温暖化防止と循環型社会の構築を目指す～



このことは、大気中の二酸化炭素の増加抑制につながっています。そのため、森林の継続的な管理が地球温暖化防止に重要な役割を果たすこととなります。

エネルギー自給率の向上
日本は、エネルギー需要の大半を



輸入された化石燃料に頼っています。エネルギー全体を木質バイオマスだけで賄うことは出来ませんが、貴重な国産エネルギー源であり、多様化・リスクの分散からその利用拡大が必要となります。

ゼロ・エミッション化

ゼロ・エミッションとは、生産活動をを行う結果、排出される産業廃棄物をゼロにして循環的に利用していくことです。全国における建設発生木材（利用されない製材工場残材や住宅解体材など）の再資源率は、三八%になります。また、製材工場からは、全国で年間約百万³m³が廃棄さ

れています。これらをバイオマスエネルギーとして有効に利用することが産業廃棄物を減らし、循環型社会の形成に役立ちます。

県内では、木質ペレット製造施設や木質ペレットを燃料としたストーブの開発、木質バイオマスを利用した発電施設など様々な取り組みが民間企業を中心として行われようとしています。

県としても、県内における未利用資源について木質バイオマスへの利用を図る目的で今年度、未利用資源の賦存量を把握し、「山形県木質バイオマス資源活用計画」を策定することにより活用に向けた取り組みを推進し普及啓発を行ってまいります。

森林の適切な整備・保全

森林は、国土の保全や水源かん養などさまざまな機能をもっており、これらの機能を発揮するためにも間伐や適期の伐採など適切な管理が必要です。木材を建築資材として積極的に利用し小径材など低質材のバイオマスへの活用が森林整備の推進につながることから、今後一層の利用や活用に向けた普及啓発が図られることを期待します。

〔県森林課〕

森林交流館「木もれび館」竣工

オープンを待つ「遊学の森」

神室山から、あのさわやかな風が吹いた去年の六月二日は、参加した多くの皆さんを感動の渦に巻き込み、山形県民の森



木もれび館全景

県植樹祭)として開催されますので、その整備状況をお知らせします。地元の人をふんだんに使った「森林交流館」が三月末に完成し、名称が「木もれび館」と命名され現在(四月上旬)備品の取り付け等が進んでおります。

「遊学の森条例」

により、四月一日から金山町へ管理運営が委託されその体制も整備されつつありますがソフト面を受け持つ森の案内人は、先の一月号で紹介したとおり「遊学の森案内会」が、十四年度内に二十三名の会員を集め、一年中のプログラム十四種(外にも秘密プログラムがあるとのこと?)を作成し万全を期しています。

その記念すべき「遊学の森」のオープンセレモニーがこの六月七日に「ポスト植樹祭」(平成十五年度山形

のブナ林、神室ダムの笹、大平山への山菜採り、冬のスノートレッキング、希望があれば玄人集団金山二十人衆の講師陣等と、季節や昼夜、技量の程度も多彩にわたって用意されております。

また、「遊学の森はみんながつくる」というスローガンのもと、誰でも記念植樹が出来る制度(有償)や木製遊具を作るなど

考えており、冬期間も開いていることが外の県民の森にはないメニューです。

休館日は、月曜日(その日が休日の場合は火曜日)となっております。多人数で来る場合は予約を必要とします。

現地ルポ



こもれび館の内部(交流ホール)

「木もれび館」は、一階はコンクリート製車庫・倉庫で、二階への正面階段を登ると現地産杉丸太を柱に使ったベランダが左右に続き、開放的です。ドアが開くと使われている木材に圧倒されながら交流ホールに入り、右前方に「窓口・事務室」、その手前右奥には仕切りがない三十人規模の「森林学習ホール」、左奥に仕切りがあって木工などが出来る「森林体験ホール」と一部ロフトがあり、案内人詰所に使えます。

暖房は、県産品のペレットストーブが七基用意されており、ほのかな暖かさが期待できることでしょう。

机なども、努めて木製品を揃えて多くの県民が来るのを待ちます。

〔最上総合支庁

森林整備課〕



山形県の古木・名木⑤⑩

釜ノ越ザクラ

白鷹町大字高玉

(案内略図)

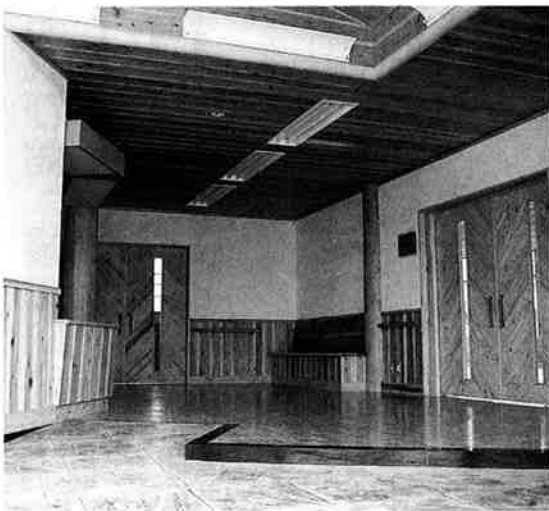


胸高周囲約六メートル、樹高約二十メートルのエドヒガンで、昭和六十一年六月十七日町指定天然記念物に指定されている。遙かな時代をこえ、人々に愛し育まれてきた名木で、ややうつむきながら咲く薄紅色の可憐な花のすがたは、見る人を樂ませてくれる。

開花期は四月二十五日頃。

「釜の越」は古い地名である。樹下に立つ三個の無名巨石には、八幡太郎義家が居陣した時に、この石で籠を築き兵糧を炊いたとの伝説がある。

〔山形県森林協会〕



公共木造施設⑭

向町交流会館(交流施設)

最上町大字向町

完成年度 平成12年度
 延床面積 305.85㎡
 構造 木造平屋建
 問合せ 産業振興課林政係
 特徴 山小屋風の建物で地域材をふんだんに使用している。



県産材による家づくりネットワーク

広がる地域材の活用と地産地消の取り組み

県産材を使用した家づくりネットワークは昨年度までに七団体を数え県内各地域で積極的に活動を展開しています。

家づくりネットワークは、建築士、大工・工務店、製材業、木材市場、金融機関等が協力して、それぞれの地域の気候や風土、建築様式に適した地域材を使用した家づくりを行っています。

各ネットワークの主な取り組みについて紹介します。

木づくりの家やまがたネットワーク活動範囲は県内一円をカバーする



幅広いネットワークで会員数四十三名を数えています。

昨年は、第五十三回全国植樹祭が金山町で行われたことを記念し、「県産材の五十三本プレゼント」、「やまがた木の住まいづくり塾」などを開催しています。住まいづくり塾は、これから家を建てようとする施主を塾生とし、県産木材を使う長所や健康に生活できる家づくりの勉強会で将来のマイホーム建築を考えた三年間の講座を行っています。内容は、

木の知識や建築に関する知識だけでなく、さまざまな建築現場や森林の保育ボランティア活動にも参加しています。また、今年度は「やまがたニュータウン」において住宅の内覧会を計画しています。

木の家づくりネットワーク
金山大工と関東在住の地元大工と連携し、金山杉を使用した産直住宅を提供しています。施主には、金山杉の故郷を視察してもらう「ツアー」の開催や住宅の構造展覧会・内覧会、木の家づくり勉強会を行っています。

白い森住宅工房

小国町内における地域産業の活性化と地域資源の地産地消を目指し活動を展開しています。主な活動は普及啓発用パンフレットの作成や、「親子二世代でのバスツアー」の開催、

植林地や製材工場の視察、住宅建築現場の視察会を通して地元の杉がどのように育ち製品として住宅に利用されているかを親子で話し合う企画など、地域に目を向けた取り組みを行っています。

庄内木材加工協同組合

住宅資材のプレカット加工を行いながら、酒田市内の展示住宅を活用したモデルプラン住宅の提供やセミナーの開催を行っています。

森林と匠の家づくりネットワーク

温海町内を活動拠点として町の住宅政策と連携した活動を行っています。庄内の森林から始まる家づくりネットワーク（酒田・飽海、鶴岡・田川）

昨年末に設立されたこの二つのネットワークは、今年度から本格的に活動を開始します。県産材による家

づくり普及啓発のセミナーを開催し、木材利用や森林整備による地域の活性化を推進していきます。

県としても、これらネットワーク活動を積極的に支援し、県産木材を使用した住宅が数多く建築されることを期待しています。

また、土木部建築住宅課の「山形の家づくり利子補給制度」についても積極的に普及啓発を図り県産木材利用による各地域の地産地消を推進していきたいと考えています。

県産材を利用した家づくりネットワーク概要

名称	設立年月日	活動範囲	会員数	構成員
木づくりの家やまがたネットワーク	平成12年1月	県内	43	建築士7、工務店21、製材業15
庄内木材加工協同組合	平成9年2月	庄内	4	木材2、製材業1、工務店1
木の家づくりネットワーク	平成13年7月	金山町・関東	64	森林組合等11、工務店40、建築士7、山村グループ6
白い森住宅工房	平成13年12月	小国町	8	森林組合、建築士組合、建設業組合、木材製材組合、素材生産協同組合ほか
森林と匠の家づくりネットワーク	平成14年8月	温海町	17	設計事務所5、工務店5、製材業4、森林所有者2、金融機関1
庄内の森林から始まる家づくりネットワーク	平成14年12月	酒田・飽海	18	設計事務所5、建設組合1、製材業5、森林所有者5、金融機関2
庄内の森林から始まる家づくりネットワーク	平成14年12月	鶴岡・田川	16	設計事務所4、建設組合1、製材業7、森林所有者2、金融機関2

環境を守ろう

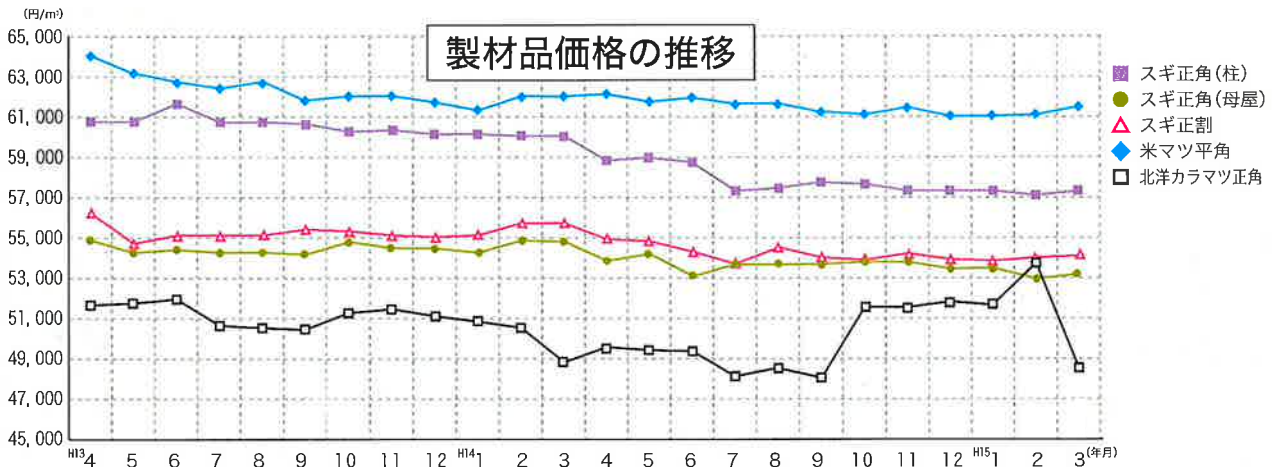
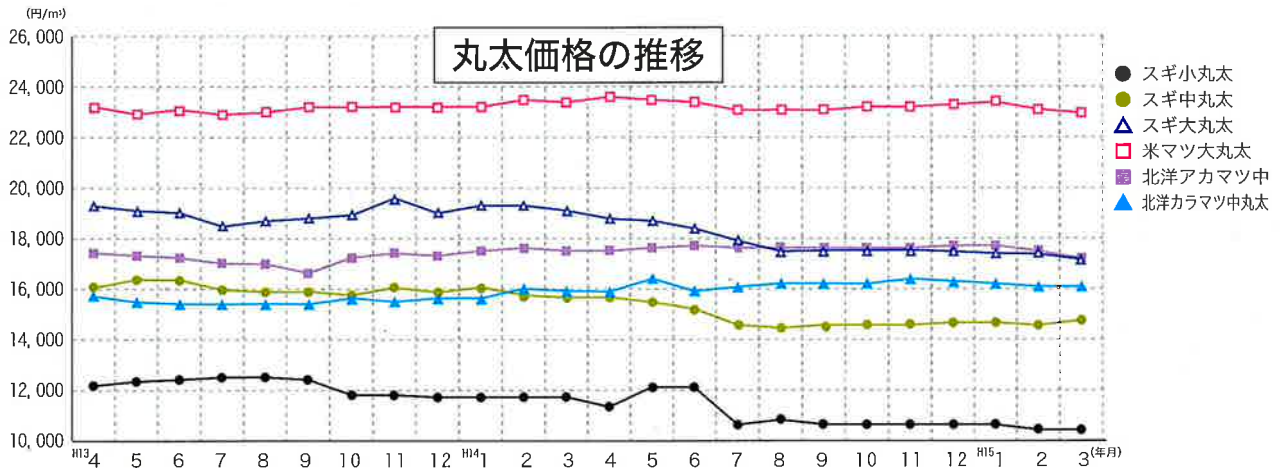
災害に強い県土を
良質な水の安定供給を
緑豊かな環境づくりを

森林を育てよう

山村の生活環境の整備を
森林の恵みの循環利用を

山形県森林土木建設業協会

山形市桜町2-35(林業会館内)
電話(023)632-3893 FAX(023)632-5454



印刷所

渡辺活版所

定価

一部二〇円

森林やまがた 5月号 平成15年5月1日発行 通巻第74号

監修 山形県
編集・発行 山形県森林協会
〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内
TEL 023-631-6566 023-622-8823
FAX 023-631-6573

「ゆとり都」森林課ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/ns/shinrin/index.html>

古紙配合率 100%再生紙を使用しています